

内水試
かわら版
76号

冬の水がきれいなら

夏のアオコは

少ないか？

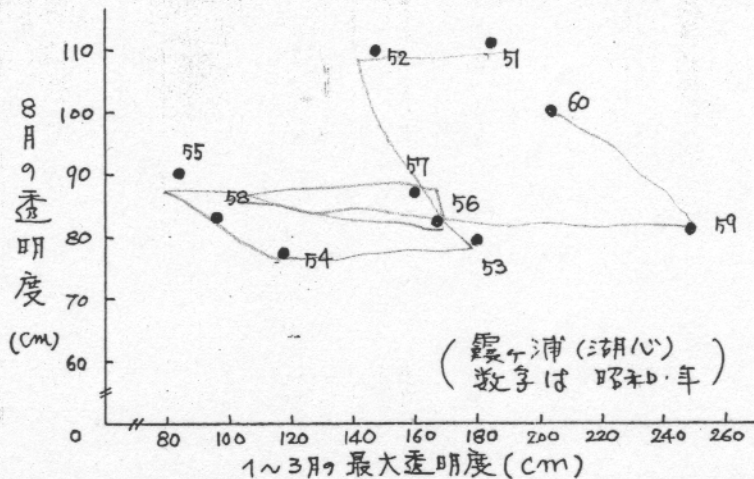
今年二月の霞ヶ浦北浦の水は、透き通っていて、大変きれいな見えた、という事は、既に「かわら版74号」で書いた通りです。

霞ヶ浦北浦の水は、一般に一〜三月に一番透き通って見えます。

厳冬の五十九年に、霞ヶ浦の湖心で、今年二月の透明度三〇cmに次

ぐ、二七cmを観測したのも三月でした。

冬に透明度が高くなるのは、どの湖でも見られる普通の現象なのですが、霞ヶ浦北浦の場合、例えば、五十八年の冬のように、霞ヶ浦湖心の透明度が、四〇cmと夏と同じくらい植物プランクトンが増殖する、という場合もあって、年によって変動が大きいのが特徴です。ところで、冬の透明度が高いと、夏のアオコの発生量が少ないのではないかと、よく聞かれますが、この因果関係については解っていません。



右の図は、過去十年間の霞ヶ浦湖心の、一〜三月の透明度の最大値と、その年の夏の透明度との関係を示したものです。八月の透明度は、

霞ヶ浦の場合、アオコの発生量を表わしていると考えた方がいいのですが、この図からは、夏のアオコの量と、冬の透明度との関係には、はっきりとした関係は見られないようです。霞ヶ浦の水が透き通っている場合、私達は水がきれいだと、つい言い方をします。しかし、それはあくまで、見た目にきれいだということ、水中に含まれている栄養食物質の量は、あまり変わっていない、ということにどうも問題がありそうです。

茨内水試図